高 崎 女 子 高 等 学 校　学 校 評 価 一 覧 表 ②　（令和４年度版）

（様式２）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ　特色ある学校づくりに努めていますか。	1　特色ある教育プログラム等により、高女に魅力を感じていますか。	・高女が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	A	A	A	新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえながら、生徒が主体的な刺激を受けられるような教育プログラムの方法を検討し実施した。	・自校に魅力を感じている生徒が全体で９０%を超えているのは素晴らしいと思う。 ・コロナ禍における行動制限がなくなり、学校においても通常の活動となってはいるが、従前通りの学校運営には戻っていないと思われる。が、これを逆手に転換期と捉えて現代に即した教育へと進めていくことが得策であると考える。 ・高女に魅力を感じている生徒、保護者の割合はとても高く、教育プログラムの効果は高いと考えられる。	・新型コロナウイルス感染症の行動制限も緩和されると思われるので、主体的に活動する力やコミュニケーション能力の向上を図っていく。アメリカでの希望者研修の復活など、生徒にとって刺激となるプログラムの計画・立案を行っていく。
	2　科学的探究活動やグローバル人材育成活動に取り組んでいますか。	・学校で実施する各種研修やプログラムに満足している生徒の割合が80%以上である。	B	B	B	コロナ禍のため、国際交流プログラム等は実施できないものもあった。校内でも工夫をしながら、取り組ませたが、コロナ禍であることを前提にしたプログラムを整える必要性、全生徒を対象にしたプログラムを充実させる必要性がある。	・コロナ禍を前提としたプログラム作成は様々な配慮が必要であったと思う。先生方のご苦労に敬意を表します。 ・「全生徒を対象」ということがポイントと思われる。 ・非常に難しいことだが、コロナ禍でもできなかったか。	・コロナ禍を理由として、様々な活動が縮小傾向になってしまったが、逆にオンラインプログラムや、県内で実施する代替プログラム等の様々な可能性を試行錯誤することができた。次年度からは、国際交流プログラムに加え、試行錯誤したプログラムのノウハウを生かし、コロナ禍以前よりも質・量ともに充実したプログラムを実施したい。
	3　外部機関との連携による教育活動の活性化を行っていますか。	・各種講演会や、大学や研究機関、企業を訪問する学習活動の取り組みに満足している生徒が80%以上である。	B	A	A	外部機関へのインタビューでは実施したほとんどの生徒が学びを深めるために効果的だったと考えており、教育活動の活性化を行うことができた。	・中学校でも今年度は職場体験学習を実施した。生徒が実際に体験できることの教育的効果は大きいものがある。 ・外部機関との連携(経験との出会い)は多ければ多いほど、生徒の今後に影響を与え、生徒自身の気付きに繋がると考える。 ・第１回よりも達成度が上がっており、外部機関との連携が効果をあげていると言える。	・外部機関訪問の実施にあたり、実施数、実施形態（現地訪問、オンライン）、密度についてはゼミごとに大きな差があった。生徒の振り返りを分析すると、外部機関訪問を実施できた生徒の学びは非常に大きく、今後のキャリア形成、探究活動に大きな影響を与えることが分かっている。 ・次年度の1年生は、全体スケジュールを改善しつつ、学年全体の取り組みの質を高めていきたい。 ・次年度の2年生は、コアゼミ構想を取り入れることで、メリハリのある指導を心掛けていきたい。
Ⅱ　生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4　主体的・対話的な深い学びになる「探究的な学習の時間」（課題研究）を行っていますか。	・協働して、または独自のテーマを設定して探究活動を進めていると自己評価している生徒が80%以上である。	B	B	B	興味関心のある分野の第一人者へのインタビューを訪問やオンラインを用いて実施する生徒は増加したが、組織的な指導とできていない部分もあった。椎樹プランと連動したプログラムにすることにより組織的な活動とし、探究活動に十分な時間を取れるようにしたい。	・生徒が学前段階として校内の組織を整え関係機関への依頼・調整を行うことの重要性を強く感じている。。 ・深い学びについては、それが個人の強みとなり当人の生き方、働き方に繋がると重視されているが、一方でマルチタスクの者も多くいる。いずれにしても生徒一人ひとりに影響を与える教育であり、重視されるべきと考える。	・1年生後半の取り組みである、地域や社会に積極的に出て、その在るべき姿と現状のギャップを知り、そのギャップを埋めていく課題解決策を提言するプログラムは、生徒にとってはこれまでにない大きな学びの可能性を感じさせるものであった。 ・新1年では、スケジュールに余裕を持たせつつ、学年全体の取り組みの質を高めていきたい。 ・新2年では、今年度の取り組みを踏襲しつつ、さらに発展させた取り組みを実施していきたい。 ・新3年では、高校時代の探究活動と、進学先を繋げられるような志望理由書作成指導を充実させていきたい。
	5　生徒は主体的・対話的な深い学びのもと、確かな学力を身に付けていますか。	・授業に満足している生徒が、80%以上である。	A	A	A	授業に満足している生徒は多い。主体的、対話的な学びのもと、確かな学力を身に付けられるよう研鑽を積むことを続けていく。	・生徒アンケートにもあるように「高女の授業は､十分な学力が身に付けられる」と感じている生徒が９５%を超えているのは素晴らしいことだと思う。 ・熱心な教員が多く、生徒からの信頼も厚い。 ・授業に満足している生徒の割合は高い数値を継続しており、取り組みは効果をあげていると考えられる。	・論理的に思考する力や複雑で難解な文章や図表などを正しく読み取る力（読解力）などが弱点となっている部分があるので、授業を通して確かな学力を身に付ける工夫を行う。

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅱ　生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	6　学習内容の定着を図るため、自己が必要とする内容・分量で家庭学習に取り組んでいますか。	・家庭学習について、自らが必要とする内容・分量で取り組んでいると感じている生徒が80%以上である。	C	B	B	学校評価アンケートの分析により自分はもっとできると感じている生徒が多いことが分かった。モチベーションを高めるような取り組みの立案が必要である。	・生徒個々の興味関心や能力に応じた課題提示の工夫は本校でも今後の課題として生きたいと考えている。 ・自身を鼓舞するタイプの回答が多いことに対して(特に女性としての側面から)セルフマネジメントできるようになるためのアプローチが必要と考える。心身ともに強く健康であることは、良いパフォーマンスをすることの必須条件である。 ・１，２年時やや家庭学習への取り組みが不足がちである。 ・第１回よりも達成度が上がっており、自分を高めたい学生のニーズに応えるものとなっていると言える。	・モチベーションを高めるために、自分の興味・関心を確認し、進みたい将来像を描けるようなキャリア教育の充実を図ることで、高い目標を持った集団づくりを試みる。また、生徒のアイデアも取り入れる工夫を行う。
	7　生徒に年間学習計画や考査範囲等を的確に示して、学習意欲を喚起していますか。	・シラバスによって授業進度を理解し、学年通信や教科担当が発信する文書などで、試験範囲や学習のポイントを確認している生徒が80%　以上である。	B	B	B	学年通信や教科担当が発信する文書などで授業や試験範囲のポイントを示し、生徒の学習意欲の喚起につながった。一方、シラバスの利用度が低く、シラバスを用いた授業説明を活性化する必要がある。	・本校では学校から出す通信等が時として多くなり、生徒・保護者がその全てに目を通すことを難しくさせてしまうことがあり、今後の検討課題として必要であると考えている。 ・シラバスについては受け身になりがちな教育では難しい側面がある。 ・シラバスはそれを用いた説明をしないと活用されない傾向がある。	・シラバスの利用については、３年間の高女での学びを概観しながら、現時点を時々確認するとともに、受験までのスケジュール管理を生徒一人一人が行えるよう工夫を行う。
Ⅲ　生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	8　組織的・継続的な指導を行っていますか。	・３日連続で欠席した生徒に適切な対応を行い、関係者で情報を共有する。	A	A	A	学年を中心に対応した。職員全体にも職員会議を利用して定期的な報告がなされ、情報共有を行うことができた。	・早期対応や初期対応、職員間での情報共有の重要性について本校でも今後も引き続き認識を深めていきたいと思う。 ・情報共有は信頼関係にもつながることであり良好と思われる。	・今後も３日連続欠席の生徒の情報共有だけでなく、いじめや自死防止の観点からも、日常的に様々な生徒情報を収集し共有することで、スピード感を持った生徒対応を組織的・継続的に行っていく。
	9　学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	・いじめ件数０をめざす。いじめに関しては、早期発見に努め、年３回以上のアンケートを実施する。	B	A	A	面談やアンケート教育相談週間を活用していじめの認知を積極的に行い、いじめ防止対策委員会を中心に対応をした。	・本校でもいじめ防止に関しては職員の取り組みに加え、生徒主体のいじめ防止活動に今後も力を入れていきたいと考えている。 ・生徒に相談しやすい雰囲気が早期発見、早期対応につながっていることは素晴らしい。	全職員の共通理解のもと、生徒の観察や面談、アンケートの実施等を通して、引き続きいじめの早期発見に努め、いじめ防止対策委員会で組織的に対応していく。
	10　生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	・１日の全校生徒数における遅刻者の割合が、２％未満である。	A	A	A	生徒の遅刻者は少ない。生徒の体調管理は良好と考えられる。	・高女の生徒は朝から良い表情で通学している。あいさつも良くしてくれるのでとても気持ちが良い。 ・数字の上では良好であるがⅡ６のとおり、もう一歩踏み込んだアプローチが必要と考える。 ・感染対策に労力がかかる中、生徒の体調管理もしっかりと行われていたと考えられる。	・生徒には自己の健康状態を常に把握し、社会的責任としてコロナ蔓延防止に努めてもらいたい。少なくなったとはいえ依然として学校生活には部活動や学校行事等に制約はあるが、出来うる限りで、平常の高校生活に近いものとなるよう配慮していく。
Ⅳ　生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	11　計画的な指導を行っていますか。	・生徒に本校のキャリア教育の「椎　樹プラン」を提示し、そのプラ　ンを活用している生徒が80%以上である。	B	B	B	学校は進路や夢をかなえてくれる場所と考えている生徒は多いが、大学入試改革などにより「椎樹プラン」そのものの見直しの時期が来ている。	・中学校では令和６年度入試から高校入試が大きく変わるので、早めの対応に努めていかなくてはと考えています。 ・自発的、能動的な女性として活躍できるよう期待したい。 ・生徒保護者ともに理解度が上がっており、取り組みは十分に効果を上げていると考えられる。	・「椎樹プラン」の早急な見直しが迫られている。新しい入試制度に対して教職員がアンテナ高く、情報収集することが求められている。 ・保護者が参加する「進路講演会」では、予備校講師による大学入試の説明以外にも、本校の現状や課題を理解してもらいたい。そのためには本校の進路指導部からの話も加えていきたい。
	12　生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	・自己分析を行うとともに、自分の適性と進路を関連づけて能動的に取り組む生徒が80%以上である。	B	A	A	自分の適性と進路との関連付けで難しさを感じる生徒もいたが、二者面談や大学訪問、大学教授出前授業などのキャリア教育により能動的に取り組む生徒が増加した。	・自己の適性と進路の関連付けで悩む生徒は中学生にもいます。様々な意味での学力の向上を実現していく必要性を強く感じます。 ・第一回よりも達成度が上がっており、取り組みは効果をあげていると考えられる。	・今年度復活した行事「大学訪問」や「大学出前授業」などを通して、1年次にできるだけ、自分の適性と進路を関連付けさせたい。また、今後はオープンキャンパスやインターンシップなど、外部に出かける機会も増えることが予想される。こうした取り組みもサポートをしていきたい。

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅳ　生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	13　適切な進路情報を提供していますか。	・生徒の将来の希望について理解している保護者が80%以上である。	A	A	A	生徒の将来について理解している保護者は多い。また、適切な進路情報を提供されていると感じる生徒保護者も学年が上がるにつれ多くなっている。、	・適切な進路情報を学校側が提供してくれるのは生徒・保護者にとってとてもありがたい。 ・全体的に良好と思われる。 ・生徒・保護者の理解度は高く適切に進路状況が提供されていると考えられる。	・学校からの進路情報を「進路通信」やClassroomなどを通してきめ細やかに生徒・保護者に発信していく必要がある。 ・進路室や進路資料室など、生徒が有効に活用できるよう、資料の増設や閲覧場所の工夫が求められる。
Ⅴ　開かれた学校づくりに努めていますか。	14　家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	・録画した動画やオンライン配信等の手段も含め､複数回の授業公開を実施する。	B	B	B	新型コロナウイルス感染症の拡大により授業公開を行うことができなかった。授業公開実施を考えたい。	・本校ではいくつかの制限を設けた上で学校公開日を設けました。保護者はもちろんだが生徒の嬉しそうな顔が印象的だった。 ・全体的に良好と思われる。 ・授業公開、行事参加などコロナとの関連で減ってしまったのは残念。 ・新型コロナウイルス感染症の落ち着きとともに、授業公開の再開が期待される	・授業公開が実施できなかったが、新型コロナウイルス感染症の行動制限も緩和されると思われるので、従来のような各学年とも年２回の授業参観を実施する。
		・ｗｅｂページをこまめに更新し、学校の最新情報を提供する。	A	A	A	各分掌等と連携し行事終了後すぐにホームページを更新するようにした。	・本校でも保護者等、多くの人が学校ホームページを見てくれている。できる限り更新できるよう努めている。 ・全体的に良好と思われる。	・高女の日々や部活動の様子などを動画なども活用してタイムリーに発信していきたい。
	15　中学校や地域との情報交換・連携を進めていますか。	・｢学校評議員会｣、｢学校関係者評価委員会｣を年２回実施する。また地元小・中学校との連携を深める。	B	A	A	学校評議員会は予定通り２回実施することができた。また、ボランティア活動を通して地元の小学校や地域と連携を深めることができた。	学校評議員会等について、中学校ではコロナ禍により思うような実施ができていない。本校を見てくださっている方々の意見を直接聞く機会をもつことの重要性を感じている。 ・全体的に良好と思われる。 ・計画が順調に進められている。	・学校評議員会の日程を調整することにより評議員の方が確実に出席できるような日程を設定する必要がある。
Ⅵ　教育のデジタル化に努めていますか。	16　ICTを活用した指導を行っていますか。	・全ての教師が、ICTを活用した授業を実施する。	A	A	A	効果的な利用方法について学び合うために授業校内などをして情報交換などを行い、授業内でのICT活用を進めた。	ICTに関する職員の研修が進んでいるのは素晴らしい。本校でも今年度は校内研修の主軸に据えて取り組んでいる。 ・全体的に良好と思われる。 ・授業におけるICT活用は順調である。	・一人一台のChromebookの貸与が、令和６年度入学生から廃止される。教員も同様で、各自の機器を使用した授業やその他の活用をどのようにしていくのか来年度中に検討していく必要がある。
	17　ICTを活用した業務改善を行っていますか。	・各種会議においてクロームブックを活用し、ペーパーレス化を進める。	A	A	A	各種会議でクロームブックの活用が進んだ。全ての会議で活用できるよう環境を整えていく必要がある。	本校でも職員会議のペーパーレス化を進めています。各種アンケートなどもICTを活用し業務改善に役立てています。 ・全体的に良好と思われる。 ・業務におけるICT活用は順調である。	・ペーパーレス以外にも業務改善にICTを活用できないか検討を重ねていく。